

3.6.2 立体視画像及びSAR画像の判読基準

基本的にはフォールスカラー画像と同じ基準で写真地質学的手法により判読する。ただし、立体視画像及びSAR画像共にモノクロームのため、色調の代わりに階調（明、中、暗）を使用する。

一般に画像の階調は市街地及び森林部などは後方散乱係数が高いため、画像上で明るい階調を示す。一方、海面、湖面、河川及び湿地帯は鏡面反射を起こし、後方散乱係数は極めて低いため、画像上で暗い階調を示す。本地域においては、山間部での画像の階調差が少ないため、地質単元区分にあたっては階調よりは、“肌合い”及び地形的特徴（水系パターンなど）の方が重要な判読要素となっている。

JERS-1 SARのオフナディア角度は35°と低角度であるため、幾何歪みが生じる。このため、SAR画像上に表現される地形にはフォアショートニング（Foreshortening）やレイオーバー（layover）といった現象が起こり、対称的な形状が非対称的に画像化されることがあるので、判読に際しては注意を要する。また、マイクロ波の照射方向と対象物の面がなす角度によって、画像への表れ方に差があり、一般にマイクロ波の照射方向と平行な線構造（リニアメントあるいは層理など）は読み難く、20～30°で交差するものが強調されるといわれている。このため、SAR画像から判読されるリニアメントについては照射方向に留意し、フォールスカラー画像あるいは立体視画像を参照し抽出した。

3.7 画像判読結果

3.7.1 地質単元区分

画像判読のフローは図3-8に示す通りである。地質判読の結果、本地域の地質は塊状岩類が5単元、成層岩類が35単元、合計40単元に区分された。これら判読結果と地質層序は表3-1のように対比される。判読により区分された各地質単元の分布は、既存地質図と対比してより精度の高いものとなっている。判読結果による主要既知鉱床群の胚胎する地質単元は下記の通りである。これら鉱床群を含む判読結果を図3-9～3-11に、さらに全域をコンパイルした総合解析結果を図3-12に示した。

鉱床群	判読結果による地質単元
東川鉱床群	中～高抵抗度成層岩類のPt ₂₋₆ ～Pt ₂₋₈
皎平渡地区の鉱床群	高抵抗度成層岩類のPt ₂₋₆
祿武地区の鉱床群	中～高抵抗度成層岩類のPt ₂₋₅ ～Pt ₂₋₈
易門鉱床群	中～高抵抗度成層岩類のPt ₂₋₅ ～Pt ₂₋₇
大紅山鉱山	高抵抗度の成層岩類のPt ₁₋₂
牟定地区の含銅砂岩鉱床	低～中抵抗度成層岩類のK ₁ , K ₂

JERS-1データ

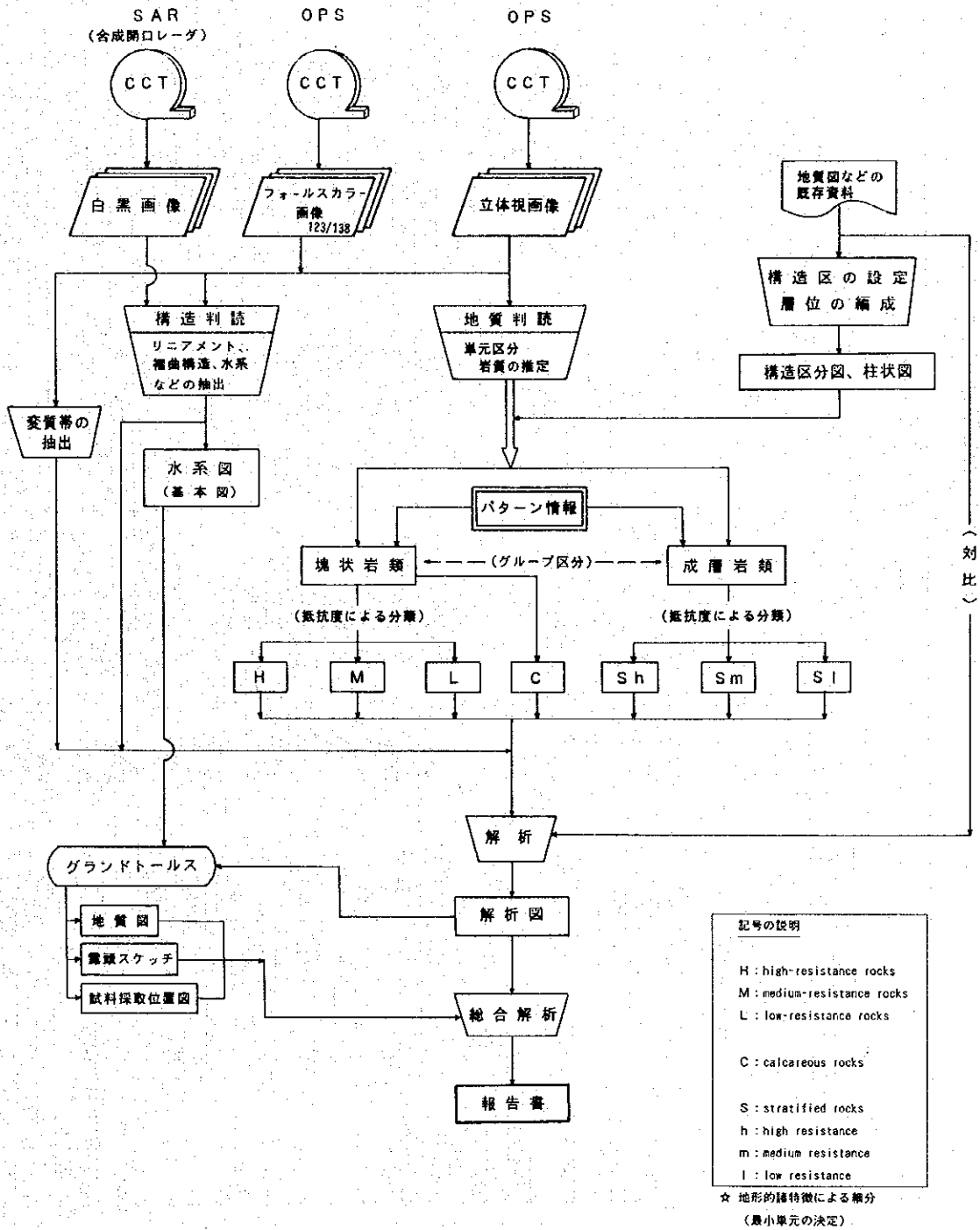


図3-8 画像判読フロー

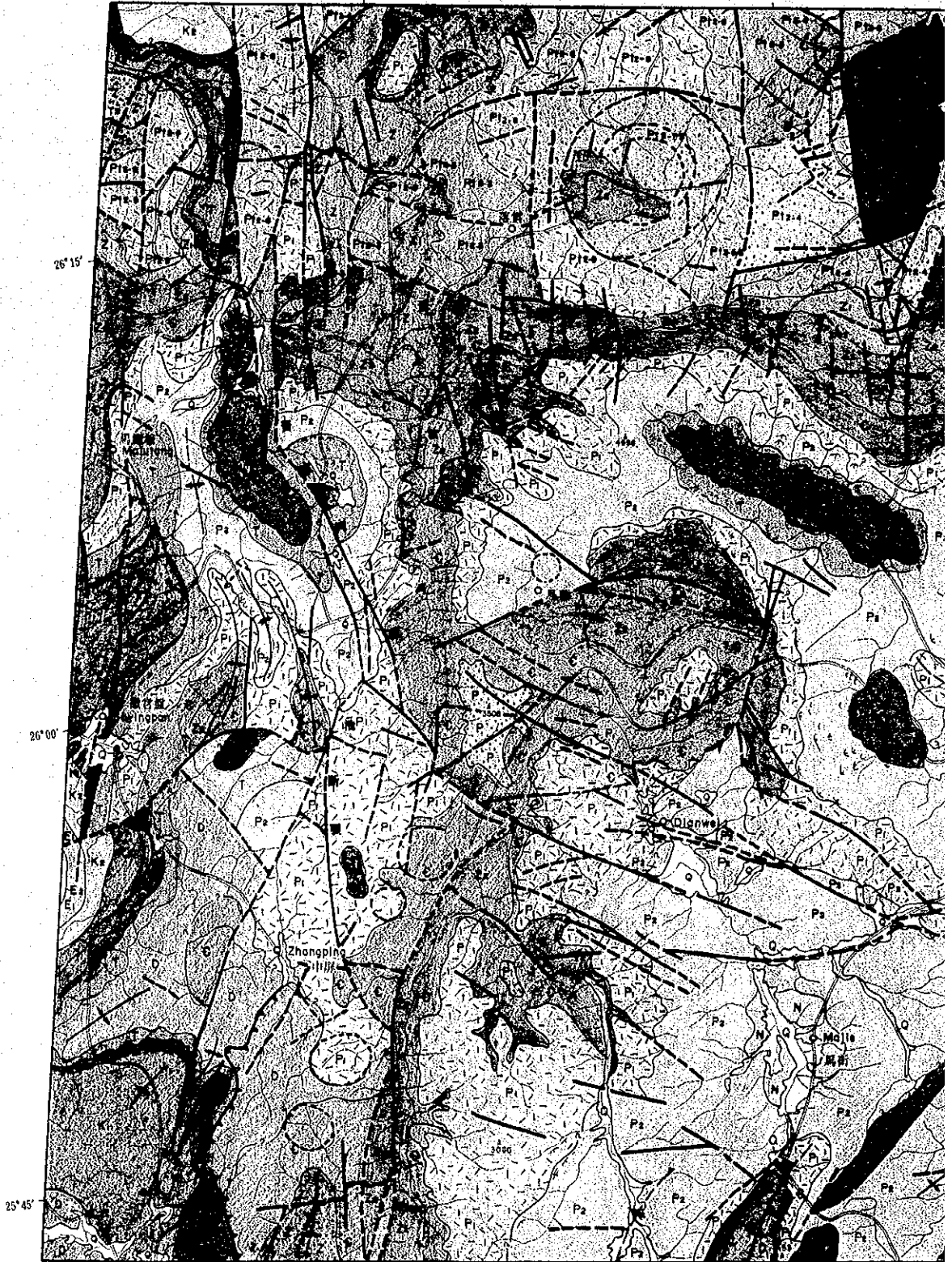
表3-1 裸武周辺地域画像判読結果一覽表

地質時代	地質單元	判読区分	写真的特徴		地形的特徴		ベディングの発達度	植生	予想される構成岩類	既存地質区との対比
			肌色	配合	水系パターン	水系密度				
QUATERNARY	Q	未固結, 低抵抗度	淡褐色	スームス	ミランダリング	低	不明	疎	粘土	Qp
	Qp	未固結, 低抵抗度	淡褐色	スームス	ミランダリング	低	不明	疎	砂・粘土・堆積物	Qp
TERTIARY	N	成層, 低抵抗度	褐色	粗粒	樹枝状	中	一部で発達	中	礫岩類・砂質岩類・泥質岩類	N ₁ , N ₂
	E ₂	成層, 中抵抗度	暗褐色	細~中粒	樹枝状	中	一部で発達	中	礫岩類・砂質岩類・泥質岩類	E ₂
CRETACEOUS	E ₁	成層, 高抵抗度	暗褐色	細粒	樹枝状	中	不明	中	礫岩類・泥質岩類	E ₁
	K	成層, 中~低抵抗度	暗褐色	細粒	樹枝状, 羽毛状	高	一部で発達	中	礫岩類・砂質岩類・泥質岩類	K ₂ , K ₁ ²
	K ₁	成層, 中~低抵抗度	暗褐色	細粒	樹枝状, 羽毛状, 樹枝状	高	一部で発達	中	礫岩類・砂質岩類・泥質岩類	K ₂ , K ₁ ¹
	J ₄	成層, 中~低抵抗度	暗褐色	細粒	樹枝状	中	よく発達	中	泥質岩類・砂質岩類	J ₃ , K ₁
JURASSIC	J	成層, 中~低抵抗度	暗褐色	中~細粒	樹枝状, 平行状	中	一部で発達	中	泥質岩類・砂質岩類	J ₃
	J ₃	成層, 中抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状, 平行状	高	発達	中	泥質岩類・砂質岩類・炭酸塩岩類	J ₂
	J ₂	成層, 中抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状, 平行状	中	一部で発達	中	泥質岩類・砂質岩類	J ₁
TRIASSIC	T	成層, 中抵抗度	褐色	中粒	樹枝状	中	一部で発達	中	泥質岩類・砂質岩類	T ₂ ^a , T ₂ ^b , T ₂ ^c
	T ₁	成層, 中抵抗度	褐色	粗粒	樹枝状	中	発達	中	泥質岩類・砂質岩類	T ₁ ²
PERMIAN	P	成層, 中抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状	中	一部で発達	中	泥質岩類・砂質岩類	P ₁ ²
	P ₁	成層, 中抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状	中	一部で発達	中	泥質岩類・砂質岩類	P ₁
CARBONIFEROUS	C	成層, 中抵抗度	暗褐色	中~粗粒	樹枝状	中	発達	中	炭酸塩岩類・砂質岩類・泥質岩類	C
	D	成層, 中~低抵抗度	褐色	細粒	樹枝状	高	発達	中	砂質岩類・泥質岩類	D
DEVONIAN	D	成層, 中~低抵抗度	褐色	細粒	樹枝状	高	発達	中	砂質岩類・泥質岩類	D
SILURIAN	S	成層, 中抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状	中	不明	中	露出せず	S
ORDOVICIAN	O	成層, 中抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状	中	不明	中	泥質岩類・砂質岩類	O
CAMBRIAN	C	成層, 中~高抵抗度	暗褐色	中~細粒	樹枝状	中	一部で発達	中	炭酸塩岩類・泥質岩類・砂質岩類	C ₁ , C ₁₋₂
L. PALAEZOZOIC	PZ	成層, 中~高抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状, 平行状	中	一部で発達	中	片岩類	PZ ₁
	Z	成層, 高抵抗度	褐色	中粒	樹枝状	中	不明	中	炭酸塩岩類	Zb
M. PROTEROZOIC	Z ₁	成層, 高抵抗度	褐色	中~細粒	樹枝状	中	一部で発達	中	泥質岩類・砂質岩類	Za
	Pt ₂₋₉	成層, 高抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状	中	一部で発達	中	泥質岩類・砂質岩類	Pt ₂₋₉
	Pt ₂₋₈	成層, 中~高抵抗度	暗褐色	中~細粒	樹枝状	中	一部で発達	中	泥質岩類・砂質岩類	Pt ₂₋₈
	Pt ₂₋₇	成層, 中~高抵抗度	暗褐色	中~細粒	樹枝状	中	一部で発達	中	泥質岩類・砂質岩類	Pt ₂₋₇
	Pt ₂₋₆	成層, 高抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状, 羽毛状	中	一部で発達	中	泥質岩類・砂質岩類	Pt ₂₋₆
	Pt ₂₋₅	成層, 中抵抗度	暗褐色	中~細粒	樹枝状	高	一部で発達	中	泥質岩類	Pt ₂₋₅
	Pt ₂₋₄	成層, 高抵抗度	暗褐色	中~粗粒	樹枝状	中	一部で発達	密	泥質岩類・砂質岩類・炭酸塩岩類	Pt ₂₋₄
	Pt ₂₋₃	成層, 高抵抗度	暗褐色	中~細粒	樹枝状	中	一部で発達	中	泥質岩類	Pt ₂₋₃
	Pt ₂₋₂	成層, 高抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状	高	一部で発達	中	泥質岩類	Pt ₂₋₂
	Pt ₂₋₁	成層, 中~高抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状	中	一部で発達	中	泥質岩類	Pt ₂₋₁
L. PROTEROZOIC	Pt ₁₋₃	成層, 中~高抵抗度	暗褐色	中粒	樹枝状	中	一部で発達	密	泥質岩類	Pt ₁₋₃
	Pt ₁₋₂	成層, 高抵抗度	暗褐色	中~粗粒	平行状, 樹枝状	高	よく発達	密	泥質岩類	Pt ₁₋₂
	Pt ₁₋₁	成層, 高抵抗度	褐色	中~粗粒	樹枝状	中	一部で発達	中	片岩類	Pt ₁₋₁
L. PROTEROZOIC	Ar-Pt	成層, 中~高抵抗度	暗褐色	中~粗粒	樹枝状, 羽毛状	高	不明	密	砂質岩類・泥質岩類	Ar-Pt ₁
	G ₃	塊状, 高抵抗度	暗褐色	中粒	平行状, 樹枝状	中	無	中	花崗岩類	G ₃
INTRUSIVE ROCKS	G ₂	塊状, 中~高抵抗度	暗褐色	中粒	平行状, 樹枝状	高	無	中	花崗岩類	G ₂
	G ₁	塊状, 高抵抗度	暗褐色	中~粗粒	平行状	中	無	中	花崗岩類	G ₁
	B	塊状, 中抵抗度	暗褐色	中~粗粒	樹枝状	中	無	中	花崗岩類	B
	U	塊状, 中抵抗度	褐色	中~粗粒	平行状	中	無	中	花崗岩類	U

127/257

102°45'

103°00'



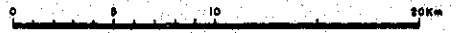
26°15'

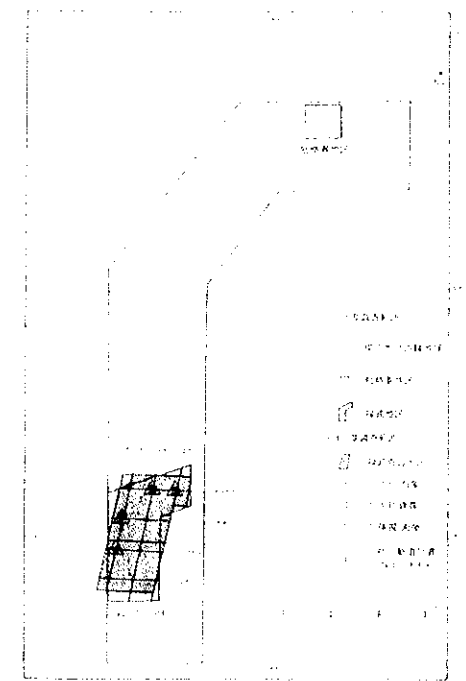
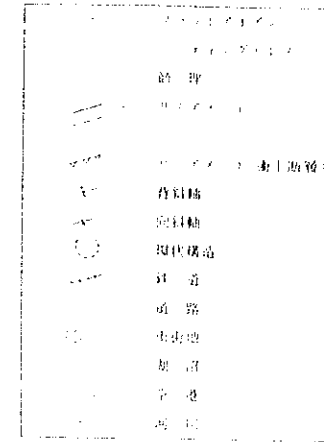
26°00'

25°45'

102°30'

102°45'



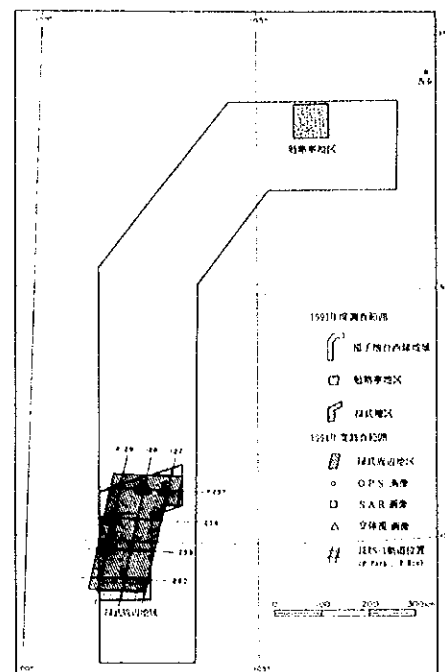


代号	名称	说明	备注
Pt2.1	第四系全新统	冲积层	
Pt2.2	第四系全新统	冲积层	
Pt2.3	第四系全新统	冲积层	
Pt2.4	第四系全新统	冲积层	
Pt2.5	第四系全新统	冲积层	
Pt2.6	第四系全新统	冲积层	
Pt2.7	第四系全新统	冲积层	
Pt2.8	第四系全新统	冲积层	
Pt2.9	第四系全新统	冲积层	
Pt2.10	第四系全新统	冲积层	
Pt2.11	第四系全新统	冲积层	
Pt2.12	第四系全新统	冲积层	
Z1	震旦系	片麻岩	
Z2	震旦系	片麻岩	
C	震旦系	片麻岩	
D	震旦系	片麻岩	
K1	震旦系	片麻岩	

图3-9 西康利达站地质图(1:25000)



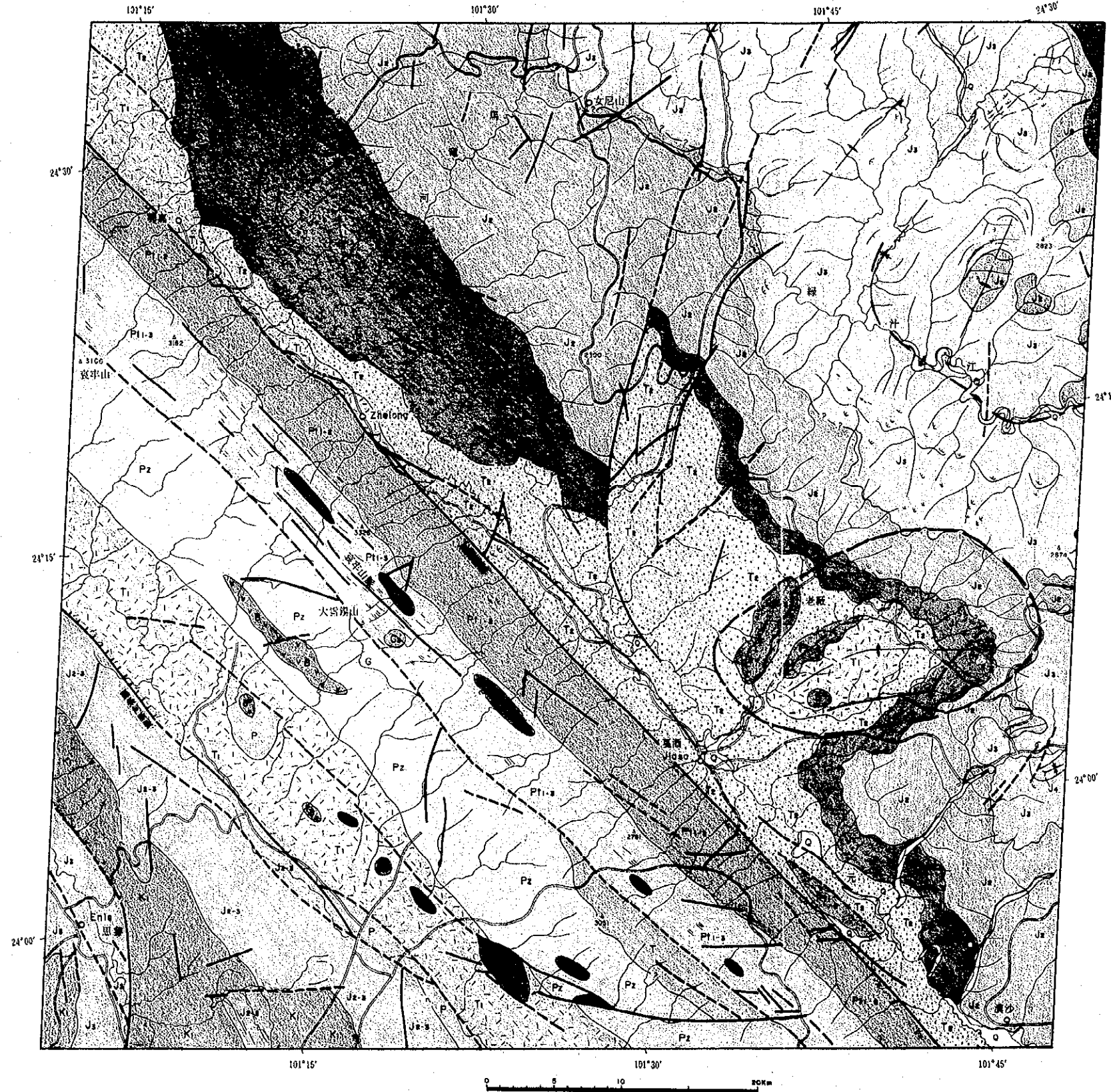
- フラットアイアン
- ベディングトレス
- 節理
- リニアメント
- リニアメント(面上断層)
- 背斜軸
- 向斜軸
- 環状構造
- 鉄道
- 道路
- 市街地
- 湖沼
- 空港
- 河川



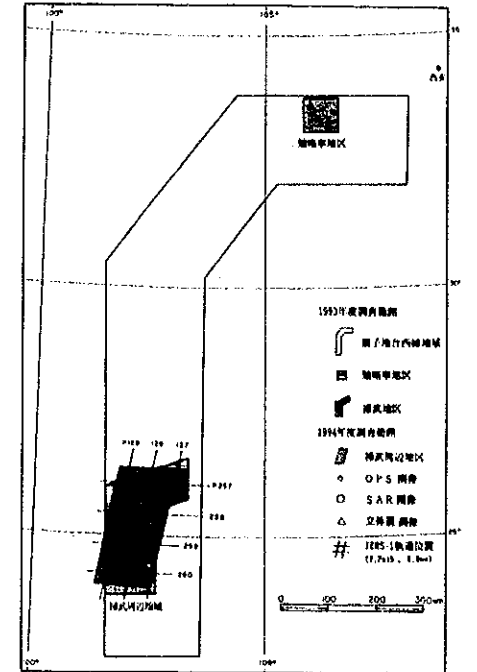
時代	単位	中説区分	写真的特徴	地形的特徴	ベディングの発達	付随する構造	存在地帯
QUATERNARY	Q	第四紀 沖積堆積	沖積物	扇状地	不明	扇状地	扇状地
TERTIARY	E ₁	第三紀 中新世	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	E ₂	第三紀 中新世	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
CRETACEOUS	K ₁	白垩紀 下白垩	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	K ₂	白垩紀 上白垩	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
JURASSIC	J ₁	侏羅紀 下侏羅	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	J ₂	侏羅紀 上侏羅	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
TRIASSIC	T ₁	三畳紀 下三畳	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	T ₂	三畳紀 上三畳	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
PERMIAN	P ₁	石炭紀 下石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	P ₂	石炭紀 上石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
CARBONIFEROUS	C ₁	石炭紀 下石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	C ₂	石炭紀 上石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
DEVONIAN	D ₁	石炭紀 下石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	D ₂	石炭紀 上石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
SILURIAN	S ₁	石炭紀 下石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	S ₂	石炭紀 上石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
ORDOVICIAN	O ₁	石炭紀 下石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	O ₂	石炭紀 上石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
CARBONIFEROUS	C ₁	石炭紀 下石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	C ₂	石炭紀 上石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
L. PALAEOZOIC	P ₁	石炭紀 下石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	P ₂	石炭紀 上石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
SILURIAN	S ₁	石炭紀 下石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	S ₂	石炭紀 上石炭	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
V. PROTEROZOIC	P ₁	前白垩紀 下前白垩	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	P ₂	前白垩紀 上前白垩	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
L. PROTEROZOIC	P ₁	前白垩紀 下前白垩	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	P ₂	前白垩紀 上前白垩	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
L. PROTEROZOIC	P ₁	前白垩紀 下前白垩	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	P ₂	前白垩紀 上前白垩	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
PROTEROZOIC	P ₁	前白垩紀 下前白垩	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯
	P ₂	前白垩紀 上前白垩	凝灰岩	山岳地帯	不明	山岳地帯	山岳地帯

図3-10 画像判読結果図(P129/R258)

129/260



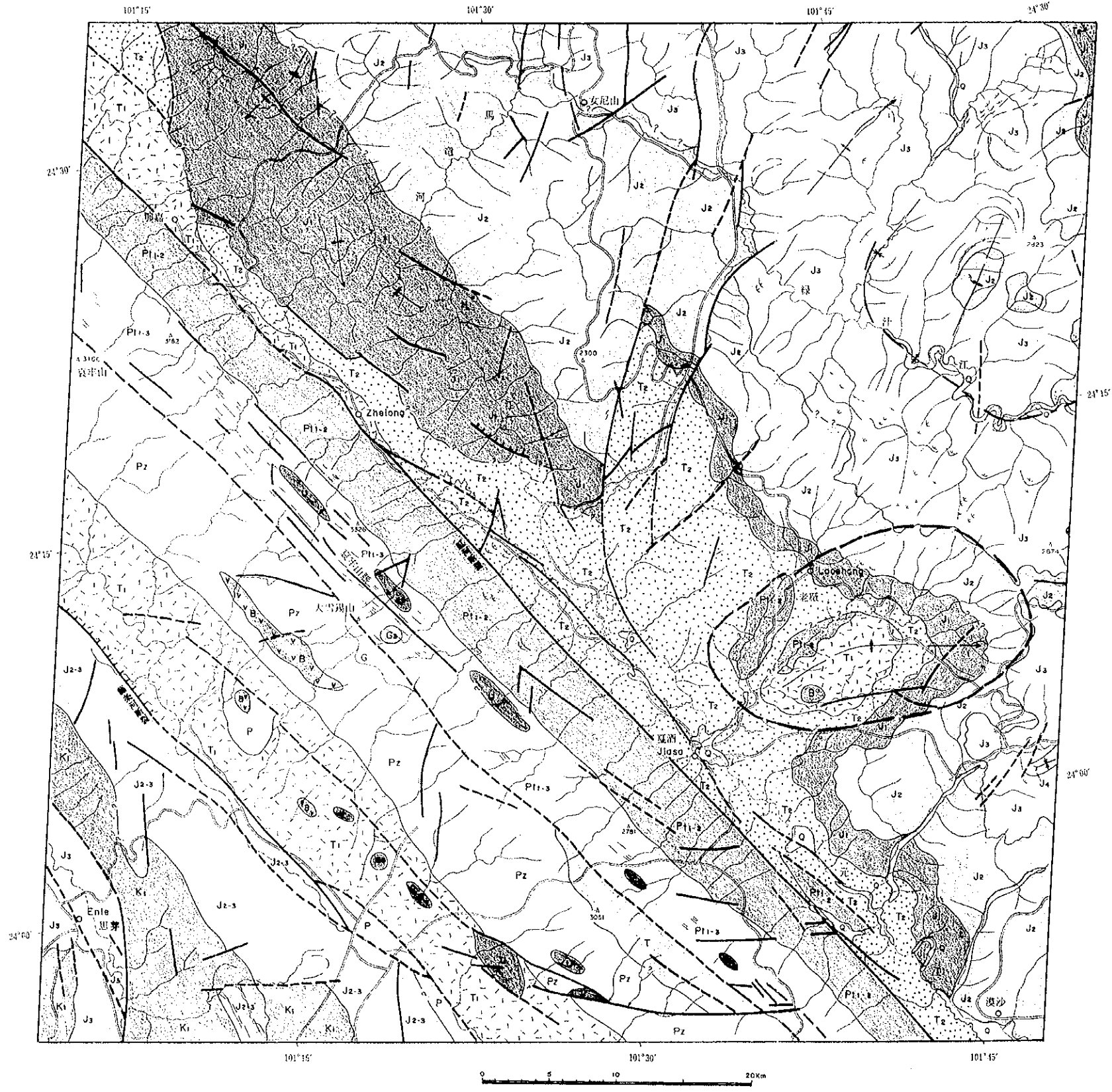
- フラットアイアン
- ベディングトレス
- 節理
- リニアメント
- リニアメント(新上新層)
- 背斜軸
- 向斜軸
- 環状構造
- 鉄道
- 道路
- 市街地
- 湖沼
- 空港
- 河川



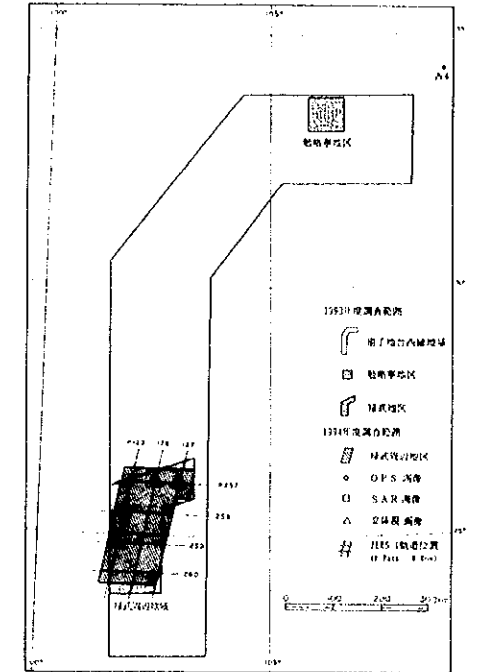
地層	時代	地層区分	写像的特徴	地層的特徴	ベディングの発達度	予想される開成の種	保存層位との比
QUATERNARY	Q	沖積層、扇状地	沖積物、スームス、ランドリフ	不明	不明	砂礫層、砂質粘土	Q
TERTIARY	T	T ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	T ₁
		T ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	T ₂
CRETACEOUS	C	C ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	C ₁
		C ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	C ₂
JURASSIC	J	J ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	J ₁
		J ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	J ₂
TRIASSIC	T ₃	T ₃ ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	T ₃ ₁
		T ₃ ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	T ₃ ₂
PERMIAN	P	P ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	P ₁
		P ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	P ₂
CARBONIFEROUS	C	C ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	C ₁
		C ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	C ₂
DEVONIAN	D	D ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	D ₁
		D ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	D ₂
SILURIAN	S	S ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	S ₁
		S ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	S ₂
ORDOVICIAN	O	O ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	O ₁
		O ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	O ₂
CAMBRIAN	C ₃	C ₃ ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	C ₃ ₁
		C ₃ ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	C ₃ ₂
PALAEOZOIC	P ₃	P ₃ ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	P ₃ ₁
		P ₃ ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	P ₃ ₂
MESOZOIC	M	M ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	M ₁
		M ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	M ₂
K. PROTZOZOIC	K	K ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	K ₁
		K ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	K ₂
L. PROTZOZOIC	L	L ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	L ₁
		L ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	L ₂
L. PROTZOZOIC	L	L ₃	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	L ₃
		L ₄	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	L ₄
INTRUSIVE ROCKS	I	I ₁	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	I ₁
		I ₂	砂質粘土、砂質砂	中-高	中-高	砂質粘土、砂質砂	I ₂

図3-11 画像判読結果図(P129/R260)

129/260



- フラットアイアン
- ベディングトレス
- 節理
- リニアメント
- リニアメント(衝上断層)
- 背斜軸
- 向斜軸
- 環状構造
- 鉄道
- 道路
- 市街地
- 湖沼
- 空地
- 河川



地質時代	地層	地層区分	写像的特徴	地形的特徴	ベディングの発達	予想される構造	既存地質図との比較
QUATERNARY	Q	第四紀	堆積物	低地	不明	沖積物	Q
TERTIARY	T ₁	第三紀	砂岩	丘陵	不明	断層	T ₁
	T ₂	第三紀	砂岩	丘陵	不明	断層	T ₂
CRETACEOUS	C ₁	白垩紀	砂岩	丘陵	不明	断層	C ₁
	C ₂	白垩紀	砂岩	丘陵	不明	断層	C ₂
JURASSIC	J ₁	侏羅紀	砂岩	丘陵	不明	断層	J ₁
	J ₂	侏羅紀	砂岩	丘陵	不明	断層	J ₂
TRIASSIC	T ₁	三畳紀	砂岩	丘陵	不明	断層	T ₁
	T ₂	三畳紀	砂岩	丘陵	不明	断層	T ₂
PERMIAN	P ₁	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	P ₁
	P ₂	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	P ₂
CARBONIFEROUS	C ₁	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	C ₁
	C ₂	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	C ₂
DEVONIAN	D ₁	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	D ₁
	D ₂	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	D ₂
SILURIAN	S ₁	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	S ₁
	S ₂	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	S ₂
ORDOVICIAN	O ₁	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	O ₁
	O ₂	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	O ₂
CAMBRIAN	C ₁	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	C ₁
	C ₂	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	C ₂
L. PALAEZOIC	P ₁	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	P ₁
	P ₂	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	P ₂
SINIAN	S ₁	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	S ₁
	S ₂	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	S ₂
C. MESOZOIC	M ₁	白垩紀	砂岩	丘陵	不明	断層	M ₁
	M ₂	白垩紀	砂岩	丘陵	不明	断層	M ₂
L. MESOZOIC	L ₁	白垩紀	砂岩	丘陵	不明	断層	L ₁
	L ₂	白垩紀	砂岩	丘陵	不明	断層	L ₂
C. PALEOZOIC	P ₁	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	P ₁
	P ₂	石炭紀	砂岩	丘陵	不明	断層	P ₂
PRECAMBRIAN	Ar-P ₁	前寒武紀	結晶岩	高地	不明	断層	Ar-P ₁
	Ar-P ₂	前寒武紀	結晶岩	高地	不明	断層	Ar-P ₂
PROTEROZOIC	P ₁	前寒武紀	結晶岩	高地	不明	断層	P ₁
	P ₂	前寒武紀	結晶岩	高地	不明	断層	P ₂
NEOZOIC	N ₁	第三紀	砂岩	丘陵	不明	断層	N ₁
	N ₂	第三紀	砂岩	丘陵	不明	断層	N ₂
QUATERNARY	Q ₁	第四紀	堆積物	低地	不明	断層	Q ₁
	Q ₂	第四紀	堆積物	低地	不明	断層	Q ₂

図3-11 画像判読結果図(P129/R260)

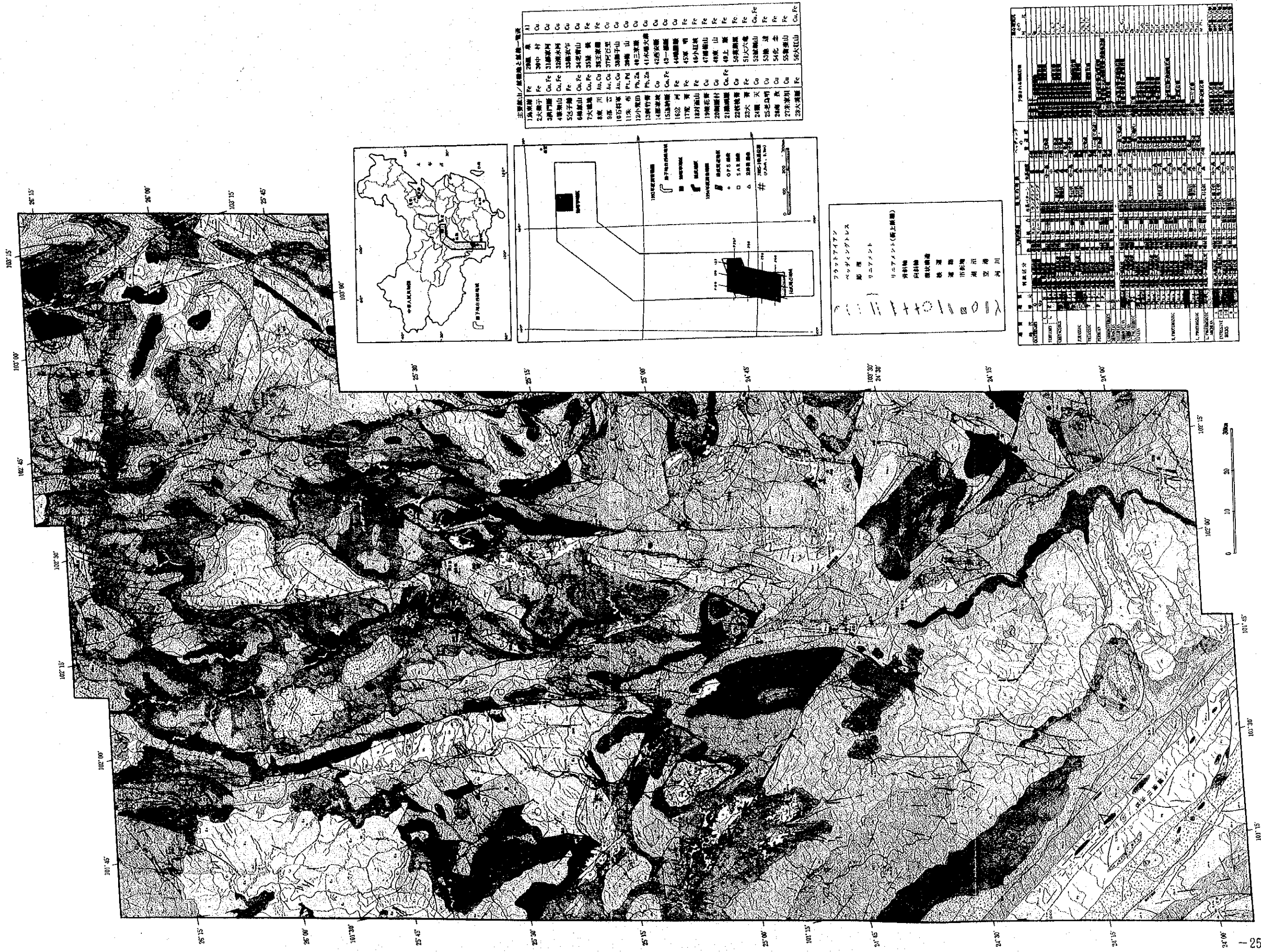


图3-12 绿武周边地域衛星画像解析綜合解析図

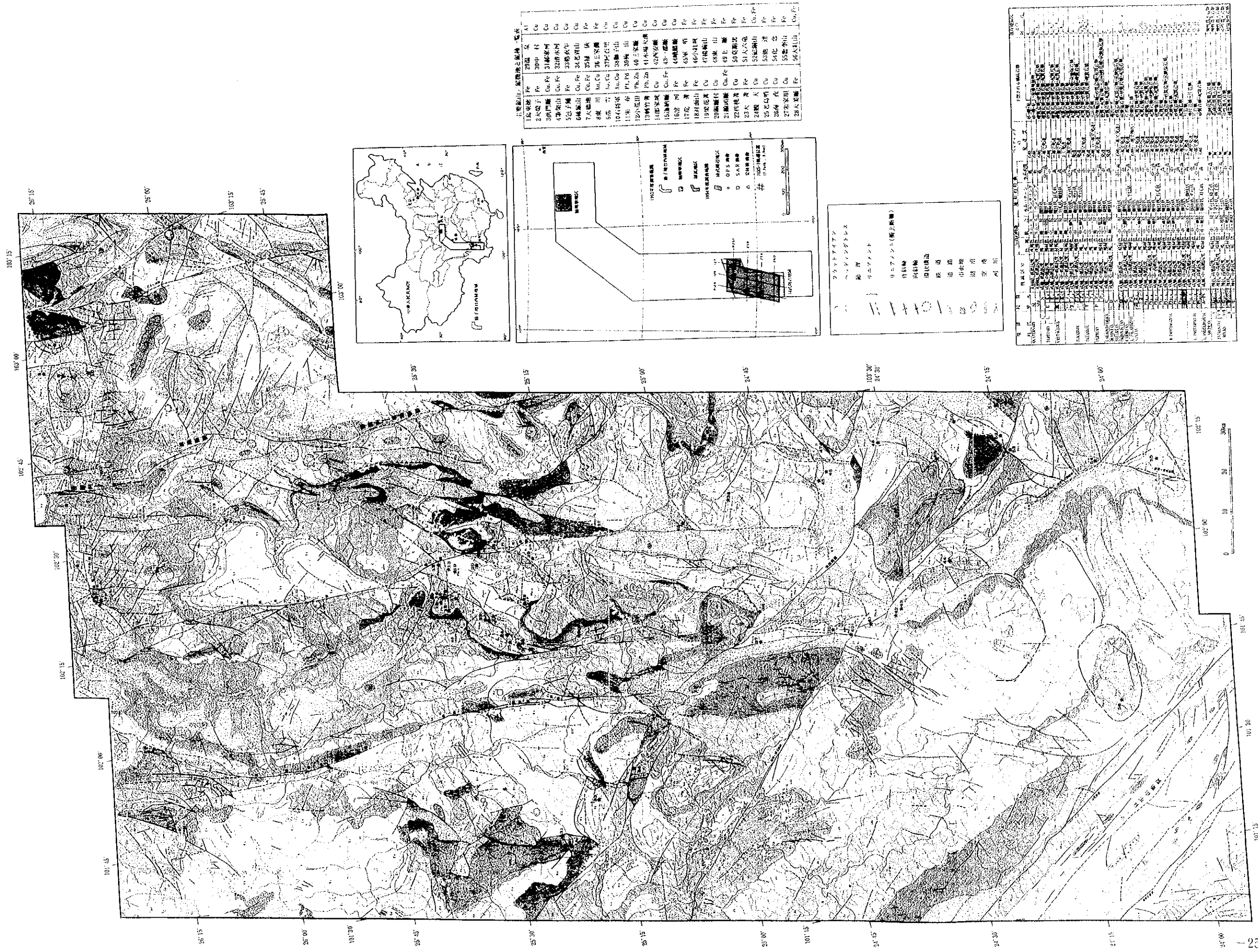


图3-12 绿武周边地域衛星画像解析綜合解析图

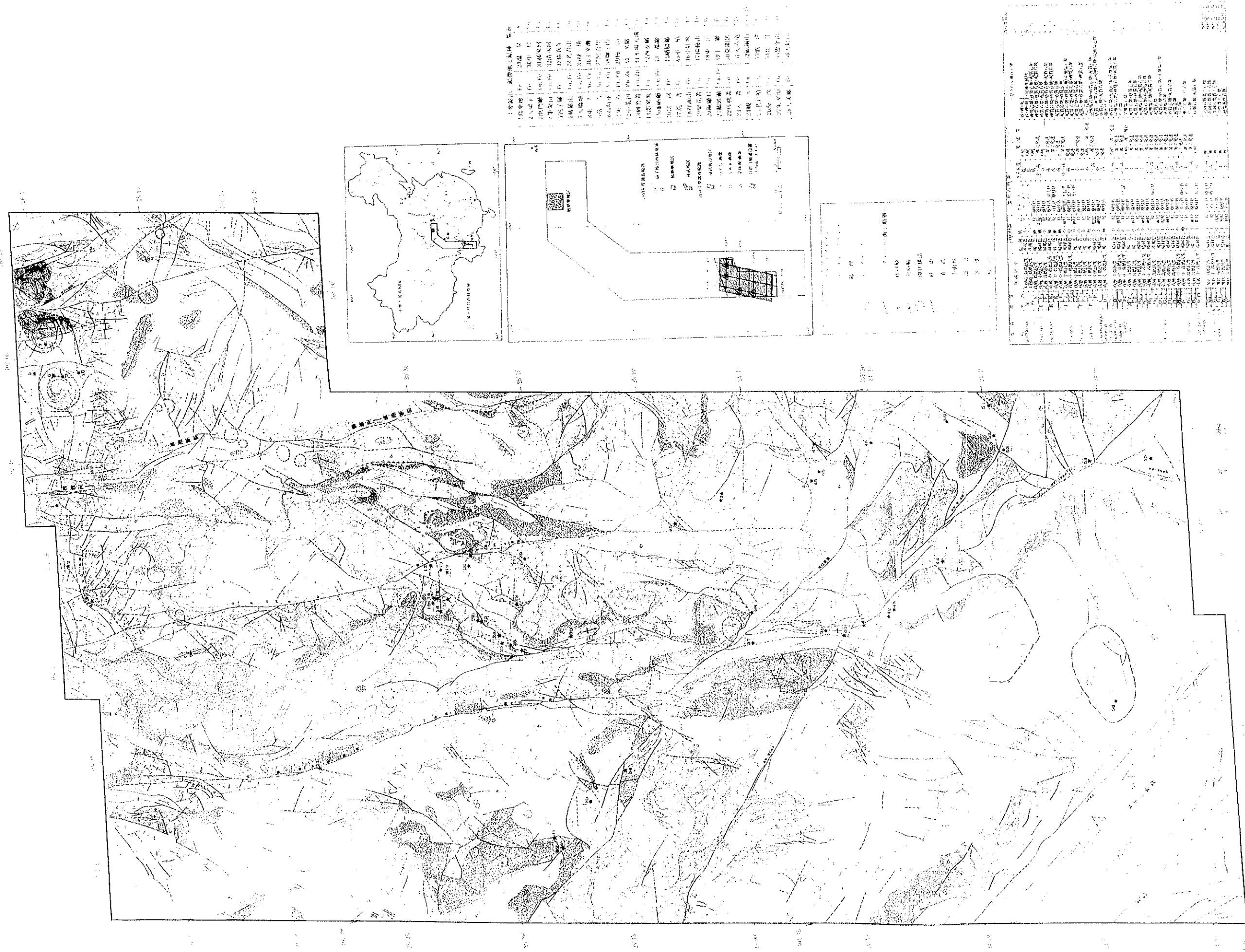


图 3-12 林式司道地城前身向後解直總台解折图

3.7.2 地質構造

(1) 断裂系

画像判読により抽出された断裂系は図3-13の通りである。既知の断裂系はすべて抽出されたほか、既存地質図には記載されていない多数の断裂系が新たに抽出された。東川地区から皎平渡地区にかけてはこれらの断裂系により著しいブロック構造を呈することが明らかとなった。上記断裂系のうち、衝上断層と判定されたものは、普渡河-滇池断裂の西側を走る断層(N-S走向、W傾斜)、獅子山鉍床北方の低角度断層(NNE-SSW走向、W傾斜: 1994年度の現地検証調査で確認済み)、上廠鉍床の西側の低角度断層(N-S走向、W傾斜)及び塔甸-石塢断裂の北半部(NW-SE走向、SW傾斜)などである。

(2) 褶曲構造

既存地質図に記載されていない多数の褶曲構造が抽出された。

東川鉍床群周辺にはいくつかの褶曲構造が抽出されたが、断層運動によるブロック化が著しいため、画像上で個々の褶曲構造を追跡することは困難である。禄武地区では進納廠、鵝頭廠鉍床が背斜構造の軸部に胚胎することが判読される。この周辺にみられる褶曲は中規模で等間隔の波長を有するものが多い。

鵝頭廠鉍床から銅廠村鉍床にかけての褶曲はN-SないしNE-SW系の方向を示しているが、進納廠鉍床付近の褶曲はE-W系のリニアメント(断裂)によって軸方向がE-W系に転化している。

中村地区付近では中村鉍床群の胚胎するPt₂₋₆~Pt₂₋₇の単元にN-S系の背斜構造が判読された。

易門鉍床群地区では第1年次にTMフォールスカラー画像から推定した梅山鉍徴地から三家廠鉍床にかけての背斜構造がJERS-1フォールスカラー及び立体視画像により、より明瞭に判読される。

牟定地区では牟定北方にN-S系の背斜構造が判読され、郝家河鉍山がその東翼部に、清水河鉍山が西翼部に位置している。

(3) 環状構造

本地域には主として次の5地区に環状構造が判読された。

① 東川地区

中部原生界中に直径10km前後の規模を有する3つの複環状構造が抽出され、これらはほぼ東-西方向に配列する。

② 皎平渡地区

中部原生界から中生界中に直径3~4kmの環状構造が数箇抽出されたが、これらの配列には規則性が認められない。

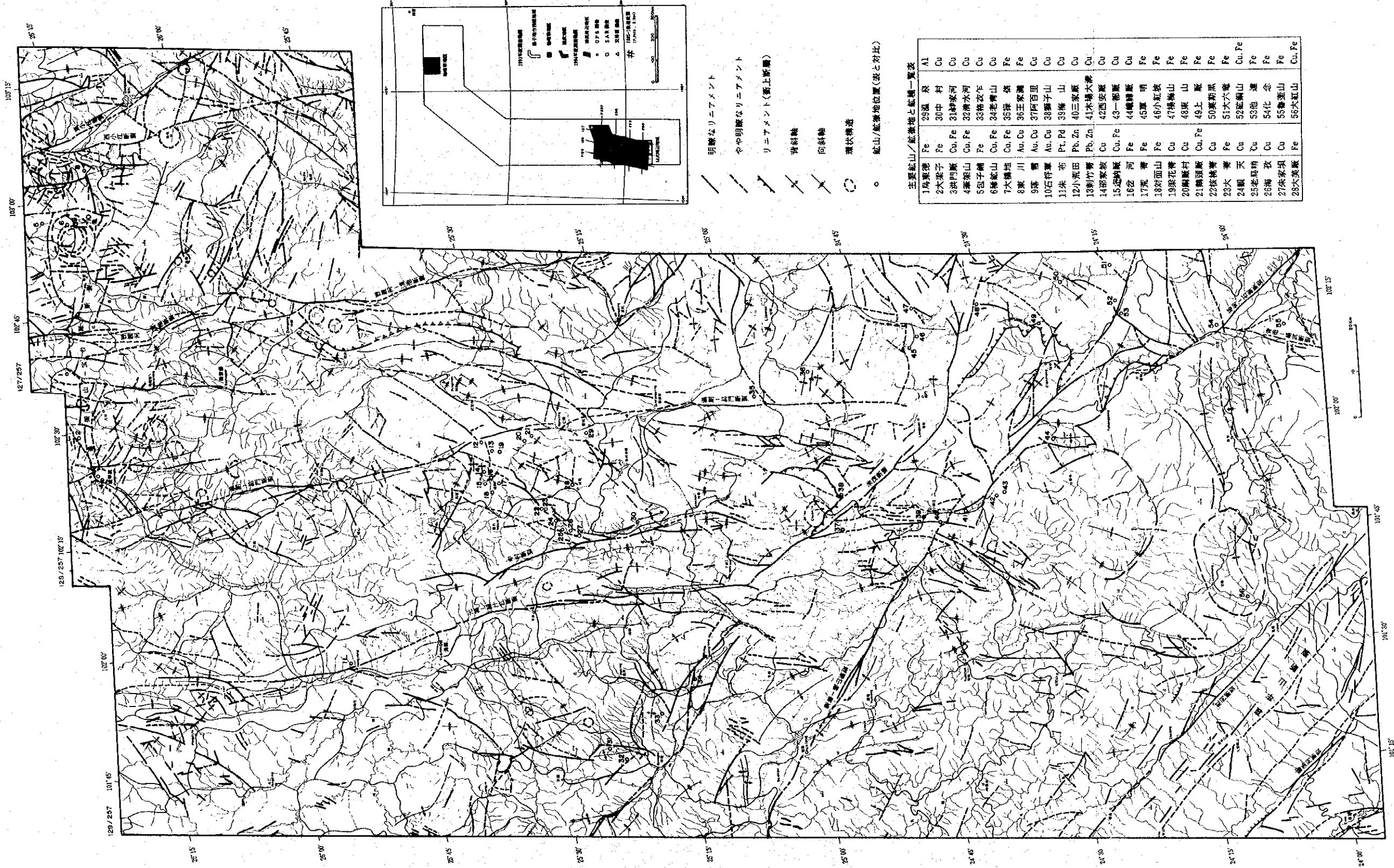
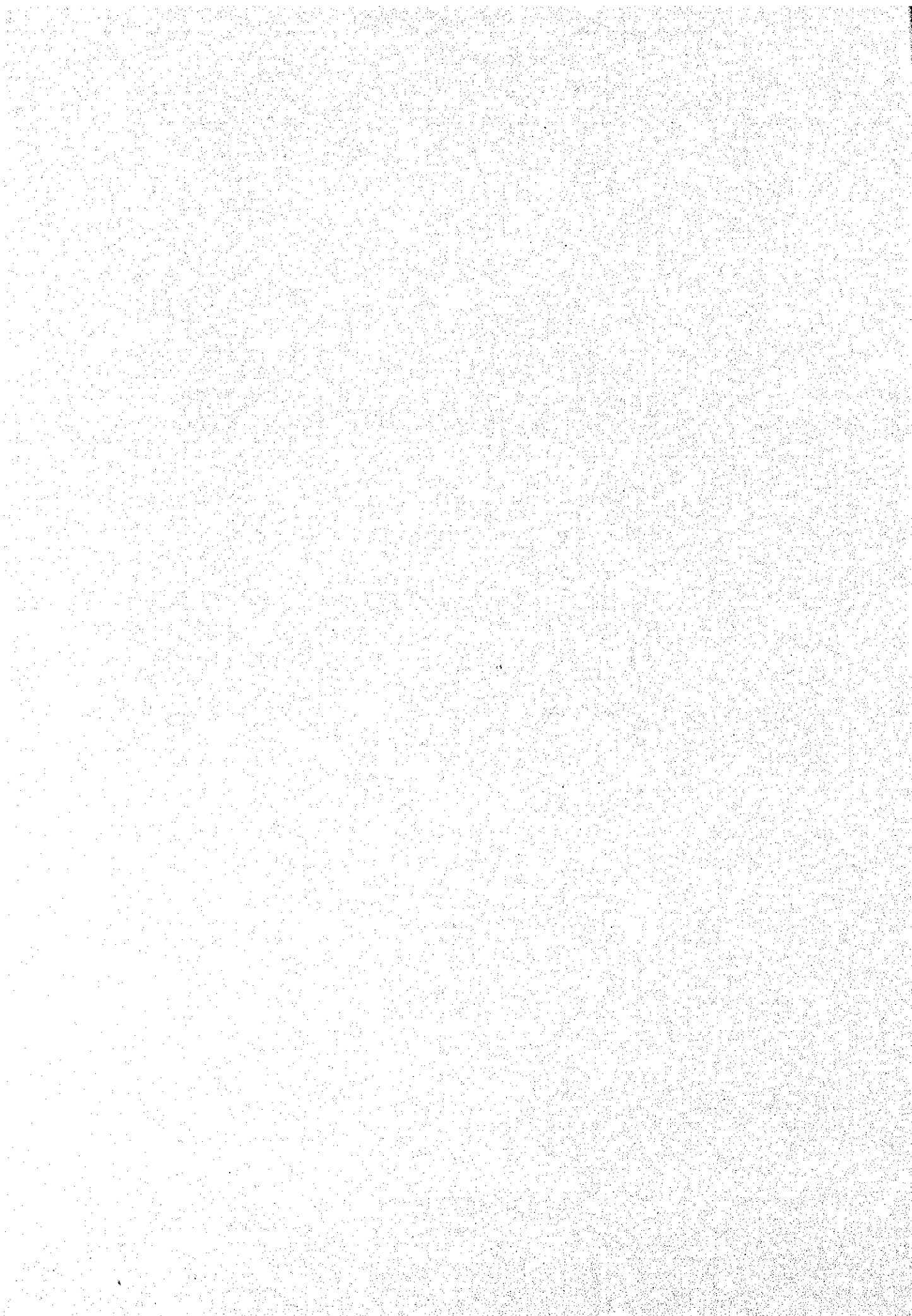


図3-13 フォトリニアメント及び鉱床・鉱産地分布図



③ 普渡河－滇池断裂の西側地区

普渡河－滇池断裂沿いの古生界中に直径2～4kmの環状構造がNNE-SSW方向に配列するのが判読される。

④ 新街地区

新街の西方付近の中生界中には緑汁江の水系異常として直径25km程度の半環状構造が認められる。

⑤ 夏洒地区

本地区には中生界（一部原生界下部）中に長径約25km、短径約15kmの楕円形の環状構造が認められる。

これらの環状構造のうち、新街地区の環状構造については、周辺及び環状構造内部に相対的に古い地層が点在することから、複向斜構造を示唆する可能性がある。

夏洒地区については、鉱山開発に伴い下部に火成岩体の存在が確認されており、貫入岩体の突き上げによるドーム構造を反映しているものと考えられる。そのほかの環状構造については関連する火成岩体が確認されていないが、東川地区については複環状構造であり深部に火成岩体が潜在する可能性が考えられる。

3.7.3 変質帯

本地域においても明瞭な変質帯が識別できなかったが、これは、全域的に植生が密であること、及び本地域の銅鉱床のほとんどが層状鉱床であり、顕著な変質帯を伴わないことによると考えられる。

3.7.4 探鉱有望地域の抽出

上記判読結果と既存資料解析結果を総合的に解釈した結果、既知鉱床の胚胎場と同じ地質条件を有し、鉱床胚胎のポテンシャルが高いと判断される範囲を下記の通り抽出した。

- ① 皎平渡地区：原生界中部の層状銅鉱床は深～大断裂近傍のブロック運動の激しい部分に集中する傾向が認められている。本地区東方の東川地区においては、複雑な断裂系が発達し、地塊のブロック化が起きている。また、本年度の解析では、3つの複環状構造が判読され、複環状構造の原因となった局部的隆起運動と、地塊のブロック化及び鉱化作用との関連性が注目されるに至った。本地区は中部原生界が分布し、画像解析から東川地域と同様な複雑なブロック構造が判読され、さらに付近には小規模な環状構造の存在が判読されており、東川地区と酷似した地質条件を有する地域である。
- ② 四川省地区：上部始生界～下部原生界が分布し、画像解析から褶曲構造及び断裂系が判読されている。東川地区や皎平渡地区のような激しい地塊のブロック化や環状構造は判読されていないが、地質条件は類似している。
- ③ 小緑江地区：本地区は中部原生界が分布し、画像解析から複雑な地質構造が判読さ